

府立出来島支援学校 R6_学校教育自己診断アンケート 結果分析

●児童生徒用 回答数 81 (小:29 中:38 高:14) 回収率 43.1%

(Aはい、Bいいえ、Cわからない)

回答率がいずれの学部でも半数に届いていない。回答方法含めて、回答数を増やす方策を検討する必要がある。(例:学部によって学校活動時間に実施する。家庭への協力をより強く要請するなど)

【保護者用アンケートとの比較】(太字数字は、肯定評価、カッコ内数字は、否定評価)

①学校は楽しい	86.4% (6.2%)	⇔ 保護者①子どもは学校が楽しみ	80.3% (14.4%)
②大切にされる	85.2% (4.9%)	⇔ 保護者②教職員の人権尊重姿勢	88.6% (6.3%)
③将来のこと	51.9% (2.5%)	⇔ 保護者④進路指導の充実	74.3% (3.1%)
④いじめのこと	51.9% (3.7%)	⇔ 保護者⑤いじめへの対応	52.3% (3.8%)
⑤相談できる先生	60.5% (6.2%)		
⑥ルール教えている	76.5% (2.5%)	⇔ 保護者⑥ルール守る態度養っている	81.8% (3.8%)
⑦行事が楽しい	87.7% (3.7%)		
⑧タブレットの使用	79.0% (3.7%)	⇔ 保護者⑭授業での ICT 機器活用	72.0% (3.8%)
⑨先生の理解	79.0% (4.9%)	⇔ 保護者⑨教員の障がい・特性理解	88.7% (5.3%)
⑩防災学習のこと	79.0% (1.2%)	⇔ 保護者⑮防犯防災学習の充実	72.8% (1.6%)
⑪交流学习のこと	58.0% (8.6%)	⇔ 保護者⑬交流及び共同学習の充実	74.2% (3.1%)

保護者アンケートと比較してみると、対応している多くの項目でポイントに大きな差がないことがわかる。児童生徒本人が学校の教職員及び教育活動に対して思っていること、感じていることと、保護者のそれに乖離がないといえる数字である。

○ ①「学校は楽しい」、⑦「学校行事は楽しい」は、11項目中最も肯定的評価が高い。小中学部の多くの児童生徒は、通学区域の変更により転学してきており、通いなれた学校、気の知れた仲間との別れがあった。各学部の新生を含め、全員が一からスタートする慣れない学習環境、新しい仲間・教職員の中にあって、戸惑いや混乱、不安等があったであろう1年めとして、及第点といえる数字である。回答数があがっても数値を保つ、更にあげていくため、日々の授業内容・行事の充実を図っていく。

△ ②「自分のことを大切にしてくれる」は、①⑦に次いで肯定的評価が高い。しかし、⑤「担任の他に気軽に相談できる先生がいる」は、肯定率が25pも低い。教職員アンケート⑥「子どもや保護者が担任以外に相談できる体制が整っている」(肯定率71.7% 否定率15.3%)の数値とも相関する結果である。また、⑪「他の学年学部、近隣校・地域の人との交流がある」も肯定率が27p低い。担任とは一定の良好な関係性は構築されており、それが①や⑦の高評価にも繋がっているが、関係性・活動が、クラス単位になっているととれる。ただ、開校初年度として、まず担任である教職員、同じクラスの仲間との関係性を最優先にし、集団力を高めることは必要なことであり、安心できる基礎集団を基地として、次年度以降、学校経営計画の中期的目標に掲げる「全ての児童生徒が仲間や社会とつながることに希望を抱ける」よう、活動にも人間関係にも広がりが見られる取組みを行っていく必要がある。

● ③「将来や進路について教えてくれる」は、〈わからない=C率〉が45.7%。学部別にみると、小のC率が62.1% (肯定率37.9%) 中のC率が44.7% (肯定率50.0%)、高のC率が14.3% (肯定率85.7%) となり、学部があがるにつれC率が減り、肯定率が上がっているのがわかる。初年度の取組みとして、学部ごとの保護者対象進路説明会やPTA主催進路学習会、中学部での就業体験実習期間(3日間×2)の設定など、キャリア教育にかかる特徴的な取組みを行ってきたが、児童生徒が小学部から系統的に進路について学んでいると実感できる取組みにしていく必要がある。

●保護者用 回答数 132 (小：49 中：59 高：24) 回収率 77.6%

(A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない)

16項目中、肯定率(A+B) 90%以上が3項目、85%以上が3項目、80%以上が3項目。肯定的評価中(Aよくあてはまる) が約70%が3項目。また、15項目で否定率(C+D) が10%未満(2.3~7.5%)であることから、開校初年度の数字として、保護者からは一定以上の評価が得られていると言える。

【肯定率が高かった項目】

⑧学校の授業参観や学校行事に参加したことがある	95.4% (A:71.2% B:24.2%)
⑪「個別の指導計画」の学習内容・評価がわかりやすい	95.4% (A:69.6% B:25.8%)
⑩「個別の教育支援計画」は相談しながら作成・活用できている	92.5% (A:72.0% B:20.5%)
⑨教職員は子どもの障がいや特性について理解している	88.6% (A:57.5% B:31.1%)
⑫教職員は子どもの人権を尊重する姿勢で教育活動をしている	88.6% (A:63.6% B:25.0%)
③教職員は子どもに対して適切な言葉かけができています	87.1% (A:58.3% B:28.8%)

- ⑪「個別の指導計画の内容・評価がわかりやすい」、⑩「個別の教育支援計画は相談しながら作成・活用できている」の数値は、教職員の「個別の指導計画に関する評価」94.1%とも合致している。学校と家庭とを繋ぐツールである「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に関する項目の高い肯定率は初年度の学校として評価できる数字と言え、引き続き内容の充実に取り組んでいく。
- ⑧「参観・行事への参加」も教職員の「行事等への参加しやすい工夫に関する評価」95.2%と合致。
- 一方、②「子どもが授業がわかりやすいと言っている」(肯定率72.0%)、⑭「授業でICT機器を活用している」(肯定率72.0%)は、〈Eわからない〉が2割を超える。学校行事参加率に比して、授業参観参加率が高くないこと、より普段の授業内容の充実に取り組む必要があることのあらわれともとれる。教職員アンケートの授業改善・授業力向上に関する項目の肯定率が高いことから、授業研究に力を入れる体制づくりは進められているので、家庭への教育実践の発信力を高める工夫が今後必要である。
- ④「学校は進路指導の充実、情報提供に努めている」(肯定率74.3%)、⑮「学校は防犯計画・防災学習の充実に努めている」(肯定率72.8%)についても、〈Eわからない〉が2割を超える。自由記述欄にも「幅広い地域の進路情報がほしい」「防災の取組みをもう少し知りたい」との意見がある。学校としてキャリア教育・防犯防災教育に力を入れており、取組み内容は初年度としては充実したものであるが、家庭には十分に伝わっていない数字である。発信力を高めるとともに、進路や防災に関する取組みは、PTAと連携して進めていくことができる分野であるため、協働のかたちを検討していく。
- △ ⑫「教職員は人権を尊重する姿勢で教育活動を行っている」(肯定率88.6%)、⑨「教職員は障がいや特性を理解している」(肯定率88.6%)、③「教職員は適切な言葉かけができています」(肯定率87.1%)は、低い評価ではないが、教職員アンケートの「人権尊重の姿勢に関する評価」(肯定率96.5%)と比べると8~9pのずれがある。自由記述欄に「偏食指導が必要な子どもへの配慮不足」「子どもを呼び捨てにする教員」に対する厳しい意見があるなど、より意識を高める必要がある。

【否定率が高かった項目】

①子どもは学校へ行くことを楽しみにしている	否定率 14.4% (肯定率：80.3%)
-----------------------	------------------------------

【わからない(E率)が高かった項目】

⑤いじめについて子どもが困っていれば真剣に対応してくれる	E 率 43.9% (否定率：3.8%)
⑮学校は防犯計画・防災学習の充実に努めている	E 率 25.8% (否定率：1.5%)
⑭授業などでタブレットなどICT機器を活用している	E 率 24.2% (否定率：3.8%)
④進路の取組み、進路指導の充実・方法提供に努めている	E 率 22.7% (否定率：3.1%)
⑬近隣校・地域との交流及び共同学習の充実に努めている	E 率 22.7% (否定率：3.1%)
②子どもは授業がわかりやすいと言っている	E 率 20.5% (否定率：7.5%)

●教職員用 回答数 85 (小：29 中：33 高：15 他：8) 回収率 98.8%

(A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、E わからない)

18 項目中、肯定率 (A+B) 95%以上が 4 項目、90%以上が 4 項目、85%以上が 4 項目、80%以上が 3 項目。対して、肯定的評価中 (A よくあてはまる) 70%以上が 1 項目、60%以上が 1 項目のみ。肯定率 80%以上でも、(B ややあてはまる) の方が高い項目が 6 項目ある。否定率 (C+D) が 10%以上の項目が 5 項目あり、うち 3 項目は、学校運営や仕事への意欲・やりがいに関する項目であり、課題と言える。

【肯定率が高かった (90%以上) 項目】

①教育活動について教職員で日常的に話し合っている	97.6% (A:61.2% B:36.5%)
⑨児童生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている	96.5% (A:70.6% B:25.9%)
⑦学校行事に参加しやすい工夫・改善を行っている	95.2% (A:57.6% B:37.6%)
⑯給食や授業で食に関する支援・指導に努めている	95.2% (A:57.6% B:37.6%)
⑩個別の指導計画を児童生徒の支援・指導に活用している	94.1% (A:50.6% B:43.5%)
⑪研究授業・研究協議をとおして授業改善に努めている	94.1% (A:49.4% B:44.7%)
⑫他教員の授業見学など授業づくりの参考にできる機会がある	94.1% (A:55.3% B:38.8%)
⑧児童生徒・保護者・地域への情報周知に努めている	90.6% (A:36.5% B:54.1%)

○ 「授業力・指導力をチームとして高めあえる日々の指導者交流体制の構築」を掲げる学校にあって
①「教職員で日常的に話し合っている」(肯定率 97.7%)、⑪「研究授業・研究協議をとおして授業改善に努めている」(肯定率 94.1%)、⑫「授業見学など授業づくりの参考にできる機会がある」(肯定率 94.1%)、⑬「初任者等へ授業づくり等の支援を行っている」(肯定率 87.0%)の数値が良いことは、1 年めの取組み成果といえ、授業研究の風土を本校の特色として継承していくことが課題となる。

● ⑨「児童生徒の人権を尊重し、教育活動を行っている」(肯定率 96.5% A 率 70.6%)は、自己評価としては高いが、保護者評価の数値とは開き (8~9 p) があり、自由記述欄にも厳しい意見がある。本校は、児童生徒への呼称(「~さん」呼びの統一)を含めて、子どもへの日常的な言葉かけへの配慮ができる学校をめざしている。保護者からの「児童生徒の名前を呼び捨てで呼ぶ教員が多い。子どもたちを見下げた態度で接しているように見える。」との意見を真摯に受け止め、教員間の意識改革、相互指摘により改善していく必要がある。

【否定率が高かった項目】

⑮学校運営に教職員の意見が反映されている	否定率 27.1% (肯定率：57.6%)
⑯教職員が意欲的に校務に取り組める環境にある	否定率 22.4% (肯定率：69.4%)
⑥子どもや保護者が担任以外に相談できる体制が整っている	否定率 15.3% (肯定率：71.7%)
⑰教育活動・学校運営に対しやりがいを感じている	否定率 14.2% (肯定率：83.5%)

● ⑮「学校運営に意見が反映されている」(否定率 27.1%)、⑯「意欲的に校務に取り組める環境にある」(否定率 22.4%)は、肯定率も他の項目に比して低く、自由記述欄にも「役職についている人や、能力の高い人の意見が尊重されており、それ以外の人、特に若い経験の少ない人は意見が言いにくい職場であると感じる」「管理職からの温かい言葉(ねぎらいの言葉)がない職場であると感じる」との意見がある。開校初年度である今年度は、50 代 40 代を中心に部主事・学年主任・分掌長を担う体制をしいており、ストレスチェック集団分析結果においても、特に他の年代よりも 40 代に業務の量的・質的負担感、疲労感があるとの数値がでていいる。このことから、組織体制の年齢構成の見直しにより、業務の平準化を図る必要がある。また、懸案事項をプロジェクトチームで検討、全体提案できる雰囲気学校として醸成することや、今年度は職員会議の議事調整会議になっていた運営会議で将来構想的な検討ができる体制にしていくことが求められる。